

第3回 第10期かかがはら高齢者総合プラン策定委員会 議事要旨

1. 開催概要

開催日時	令和8年7月2日（木）13:30-14:30
会場	産業文化センター8階第2会議室
出席者	別紙名簿参照
議題	1. 開会 2. 審議事項 （1）第10期計画における国の方針について （2）第10期計画の骨子案について 3. その他 4. 閉会
配布資料	① 骨子案【抜粋版】 ② 施策体系 ③ アンケート調査結果報告冊子

1 開会

2 審議事項

(1) 第10期計画における国の方針について

事務局 【説明】(資料 骨子案抜粋版 第1章に基づき説明)

委員長 国の指針は未確定ではあるが、大きな変更はないと見込まれる。

(2) 第10期計画の骨子案について

事務局 【説明】(資料 骨子案抜粋版 第2章以降に基づき説明)

委員長 アンケート調査結果報告については事務局から付言すべき点はあるか。

事務局 結果報告の冊子は、ホームページにも掲載しているので、詳細などはそちらで確認をいただきたい。

委員長 成年後見制度の利用促進計画とあるが、この1年半の間に制度が変わっていく。A委員はいかが思うか。

委員A 成年後見制度や日常生活自立支援事業の見直しが始まる。国会も通過し、2年後以降に新事業が開始される見込みであるが、現時点で詳細が見えていない。現場としても対応の方向性が不明であり、先が見えない事業になっていると思っている。

委員長 制度が変われば修正すればよいが、現時点でわかっている点として、後見、補佐がなくなり補助になること、一度選任されると解除できなかった点が解除可能となることなどがある。改善は進むと思われるが、制度が明確にならないと計画への反映は難しい。

委員長 15ページの地域カルテは第9期との差を比較したものであるが、気になった点として、「4.健康観や幸福感」のところで「幸福感がある」が下がっている。また、「生きがいがある」も下がっているのが気になった。ただ、幸福感は主観的な部分であるため、その点を踏まえつつ、事務局として何か補足すべき点はあるか。

事務局 幸福感は主観的なものになるので、アンケートの回答者が毎回同一とならないため、一概に下がったとは言えないが、現状として低下していることは認識している。フレイル予防の活動に積極的に取り組み、介護度が上がらないよう努めている。第2回委員会でも、介護度が上がることで幸福度が低下するとの指摘があったことから、フレイル予防に重点的に取り組むべきであると認識している。今後もこの結果を踏まえ、施策の取り組みに力を入れていきたい。

委員長 実は、介護保険事業計画においてサービス量や供給量をニーズに合わせて整備するだけでは幸福度は上がらない。介護度が上がると幸福感が下がる傾向がある。幸福感は「社会関係資本」と言われ、人との関わりや周囲の環境によって左右されるとされている。人口の少ない地域(鳥取県や島根県など)の方が幸福度が高い傾向があり、そのような地域の出身者に話を聞くと、地域の結びつき、祭り、ふるさとへのアイデンティティなどが幸福感につながっているとの声がある。北陸地域も幸福感が高いとされている。もちろん、サービスを整備していくことは重要であるが、地域の関係性づくりにも取り組んでいくことが望ましいと考える。

委員C 「わがまち茶話会」は社会福祉協議会が委託を受けて実施している事業であることは承知していたが、高齢者の生きがいをづくりの推進を目的として行われている事業だということは、この資料を読んで初めて理解した。出席者は高齢者が多いものの、地域の子育てや祭りの話題も多くあがっている。主目的はどこに置かれているのか。高齢者のみを対象とした事業なのか、それとも地域づくりの側面も含んでいるのか。

委員A 「わがまち茶話会」の目標は、地域での支え合い活動の創出である。いきなり支え合い活動への参加を求めると参加のハードルが高くなるため、まずは地域情報を交換する場として参加しやすい環境を整え、地域の方に気軽に参加していただいている。地域住民の困りごとを共有することで、地域のつながりが現場で生まれることもある。自由な会話の中から、地域での支え合いが自然に生まれていくことを目指し、日々開催している。

委員A 前回の会議において、介護事業者協議会の皆さまに介護現場職員の充足状況について質問があったと思うが、「なんとか足りている」との回答があった。しかし、その後グループホームの施設長と話す機会があり、施設長からは「全く足りていない」との声があった。短時間のアルバイトで穴を埋めている状況であり、これをもって「足りている」と評価するのは適切ではないと感じた。複数事業を運営する法人は、人材をうまく回しているようであるが、実際の現場は非常に厳しい状況にある。訪問介護についても、人材が集まらないためにサービス供給量が減少している。このような状況でも「回せている」という評価になってしまうが、実態としては「足りていない」という回答が妥当であると考える。

委員長 事業者報告では、過去1年間に離職者がいなかった事業者が半数程度であった。しかし、実際の現場では人員が不足している状況である。ある施設の施設長からは、「人がいないから埋める」のではなく、「志を持った人に来てほしい」との声があった。福祉人材養成校へ直接スカウトに行く施設もあるが、その施設でさえ人が足りていないとのことであった。訪問介護についても、人材が集まらないためサービス供給量が減少している。このような状況でも「回せている」という評価になってしまうが、実態としては「足りていない」という回答が妥当であると考える。

先ほど茶話会の話があったが、似たような形のボランティアハウスがある。現在、100か所ほどあるのか。

事務局 ボランティアハウスは数としては減少傾向にある。

委員長 減少傾向とのことであるが、担い手は高齢者中心なのか。D委員、状況はどうか。

委員D 私は、三ツ池町でボランティアハウスを運営しているが、毎月40～50名が参加している。実は、参加できる方は比較的元気な高齢者が多い。一方で、参加したくても会場まで移動できない方が非常に多く、そのような方々にどのように対応していくかが課題である。送迎を行いたいが、免許や資格の問題があり、現状では対応が難しい。他地域でもボランティアハウスの参加者は多い状況である。今後、高齢化が進む中で、より多くの方に参加していただきたいと考えている。また、参加者の8～9割が女性であり、男性の参加が少ない点も課題である。

委員長 Aまちのボランティアハウスは現在100か所近くある。その理由は、歩いて行ける場所

が少なく、参加が難しいという課題があったため、身近に拠点を整備する方針で拡大してきた経緯があり、結果として 100 まで増加した。一方、隣の B まちでは 10 もない状況であり「いきいきサロン」を中心に取り組んでいると思われる。A まちは、B まちの約 10 倍の数を整備してきた。しかし、拠点がが増えても、移動が徐々に困難になっているという課題がある。高齢者の生きがいや居場所づくりについて、シニアクラブの状況はどうか。組織率や加入者は減少していると思われるが、現状はいかがか。

委員 E 本日の資料の地域カルテを見ると、高齢者人口は 4 万 1,070 人と増加している一方で、シニアクラブの会員数は減少傾向にある。各務原市は 5 地区にわかれているが、前年度には稲羽地区が脱退し、約 200 名の会員が減少した。先ほどの意見にもあったように、送迎の問題は大きな課題である。ボランティアハウスは公民館など身近な会場で開催できるため参加しやすいが、シニアクラブの活動はスポーツ大会や親睦旅行など、車での移動を伴う行事が多く、参加者の減少につながっている。そのため、前年度から県の指導も受けつつ、e スポーツの導入を進めている。身体を大きく使わずに参加でき、頭の体操の延長として取り組める活動である。計画段階では、地域の会長や単位クラブの会長（各地域に 10 ～ 20 クラブ）を集め、今年度はより多くの人に e スポーツを普及させるため窓口を広げ、会員減少の歯止めにつなげたいと考えている。しかし、課題は非常に多い。旅行やレジャー関係の企画など、参加を促す施策に奔走しているものの、実績としては減少傾向が続いている。

委員長 場をつくり、他者との関わりを生み出すことが幸福度につながると考える。シニアクラブにおいても、アイデアを出し合いながら取り組んでいただきたい。

委員 F 16 ページの基本目標 1 ③特定健診保健指導実施率について、結果によって訪問すると説明があったが、どのような結果で訪問を行うのか。

事務局 基準値があり、メタボリックシンドロームに該当する者を優先的に訪問している。

委員 F 自宅への訪問ということか。

事務局 基本的には自宅訪問を実施している。自宅への訪問を望まない場合には、市役所など対面で実施する。電話のみでは十分な効果が得られない場合もあり、対面での支援が重要である。

委員 F その際、医療機関への受診を進めることになるのか。

事務局 状況によっては医療機関の受診を勧めることもある。一旦経過を見たうえで対応するため保健指導は 1 回で終わるものではなく、3 か月の期間で目標を設定し、その期間の状態を確認しながら計画を立てて進めている。

委員長 他にご意見等がなければ、基本理念、基本目標、方向性について、承認いただけるか。
＜一同承認＞

委員長 委員の皆さまより承認いただいた。次回以降は、この方向性に従って細かな取り組みが整備されていく。この骨組みをもとに進めていくので、皆さまにも確認いただき、足りない部分があれば次回会議以降で補っていきたい。

認知症サポーターの数は増加しているが、認知症そのものへの理解はまだ十分ではない。

身近に認知症の方がいなければ、理解が深まりにくいという側面があるため、理解促進の取り組みを進める必要がある。次回までに、取り組み案などを考えておいていただけるとありがたい。

その他、事務局からお知らせはあるか。

3 その他

事務局 次回の策定委員会は令和8年9月下旬頃を予定している。

委員長 その時には細かい施策が示されるということか。

事務局 素案について触れていきたいと思っている。本日承認いただいた骨子案を基に素案を作成し、次回委員会において提示する予定である。

4 閉会